雷電山古墳（三千塚古墳群）（東松山市）　5世紀前半、比企地方の雄

なんとゴルフ場に来てしまった

市指定史跡三千塚古墳群　雷電山古墳とある

川越カントリークラブに向かう

クラブハウスの少し手前に標柱があった/左手は調査隊の車

大雷神社とある

右手に進むと雷電山古墳があるという

この辺り一帯に三千塚古墳群が広がり、雷電山古墳はその中の中心的な古墳だという

三千塚古墳群

昭和三十一年二月市指定史跡

大岡地区には、雷電山古墳を中心として、数多くの小さな古墳が群集しています。これらの多くの古墳を総称して『三千塚古墳群』と呼んでいます。

三千塚古墳群は、明治二十年～三十年頃にそのほとんどが盗掘されてしまいました。そのときに出土した遺物は、県外に持ち出されてしまい不明ですが、一部は国立博物館に収蔵されています。三千塚古墳群からは、古墳時代後期（六～七世紀）の古墳から発見される遺物（直刀・刀子・勾玉・管玉など）が出土しています。

雷電山古墳は、これらの小さな古墳を見わたす丘陵の上に作られています。この古墳は、高さ八m・長さ八十mの大きさの帆立貝式古墳（前方後円墳の一種）です。雷電山古墳からは、埴輪や底部穿孔土器（底に穴をあけた土器）などが発見されています。

雷電山古墳墳丘実測図

雷電山古墳は、造られた場所や埴輪などから五世紀初頭（今から千五百年位前）に造られたものと思われます。また、雷電山古墳の周辺にある小さな古墳は、六世紀初頭から七世紀後半にかけて、造られつづけた古墳であると思われます。

昭和五十二年三月

東松山市教育委員会

文化財を大切にしましょう

前方に雷電神社が見えてくる

雷電山古墳の左裾、右裾が見える

大宮神社

古墳の右裾

古墳の左裾

雷電神社の社殿が見える

右手斜面

拝殿

雷電山古墳（帆立貝式古墳）の墳頂に建つ

龍をかたどった珍しい扁額

本殿

左手の石碑は「明治百年記念之碑」

奥右手斜面

奥後方斜面

墳頂を下りる

クラブハウスのすぐ近くにある説明板/右手は調査隊の車

大雷神社祭礼相撲場跡

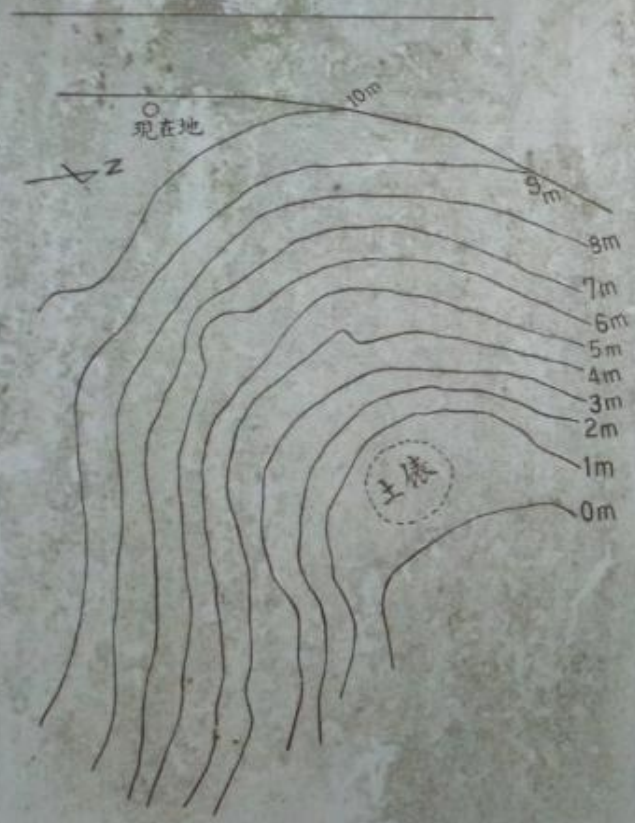
市指定史跡

旧大谷村の総鎮守大雷神社の社殿を中心に、辻（相撲場）が二ヶ所あり、一の辻・二の辻と呼ばれ、一の辻は大相撲に・二の辻は草相撲に使用されていました。辻には三百席ぐらいの桟敷席が、傾斜地を巧みに利用して造られていました。　現在は二の辻だけが残っています。　大雷神社の相撲は、江戸時代中頃から行なわれていたと伝えられています。相撲の興業には、領主だけでなく関東取締役の特別の許可が必要でした。

「ほたもち相撲」を描き、大雷神社に祈願奉納した絵馬です。

相撲興業には、近在の人々が大勢集まり、「関東三大辻相撲」の一つといわれるほどにぎわいました。

この日、祝酒とともに「ぼたもち」を相撲見物の人たちにふるまったことから「大谷のぼたもち相撲」とも呼ばれ、大変親しまれていましたが、明治二十年頃を最後にその姿を消しました。



昭和六十一年三月

東松山市教育委員会

この辺りの谷底の平地で江戸時代中期から草相撲が行われていたという

近辺にある水穴配水場にも三千塚古墳群（第Ⅰ支群）の説明板があった

参考ホームページ

http://www.musashigaku.jp/framepage13.htm